

「集合と位相」(小森洋平 著、日本評論社)の1章と2章の正誤表

ページ数	場所	誤	正
p.17	-3 行目	この x を $g(x)$ と表す	この x を $g(y)$ と表す
p.25	-5 行目	$ M(y_m - y_n) + (x_m - x_n)M $	$M y_m - y_n + x_m - x_n M$
p.29	3 行目	ことを示す	を示す
p.31	2 行目、4 行目	ε_0	ε
p.32	-8 行目	対等である	対等になることである
p.33	-4 行目	b_{n-1}	b_n
p.33	-3 行目	a_{n-1}	a_n
p.36	-6 行目	$ A = C $	$ A \leq C $
p.40	5 行目	単射になる。	(*) 長いので欄外に書きました。
p.45	-5 行目	部分集合族	X の部分集合族
p.45	-5 行目	考えと	考えると
p.47	解の (2) の左図	-1 と 1	-1 と 1 は白丸
p.57	1 行目	(2)	(3)
p.58	10 行目	(定義可能) という	(定義可能) を確かめるという
p.58	14 行目	$p, q \in \mathbb{N}$	$p, q \in \mathbb{Z}$
p.64	7 行目	最小限	最小元
p.68	-6 行目 (2カ所)	$p_0 \cdot p_1$	$p_0 + \frac{p_1}{10}$
p.68	-4 行目 (2カ所)	$p_0 \cdot p_1$	$p_0 + \frac{p_1}{10}$
p.68	-3 行目 (2カ所)	$p_0 \cdot p_1 p_2$	$p_0 + \frac{p_1}{10} + \frac{p_2}{10^2}$
p.69	1 行目	$p_0 \cdot p_1 \cdots p_n$	$p_0 + \frac{p_1}{10} + \cdots + \frac{p_n}{10^n}$
p.69	2 行目	$p_0 \cdot p_1 \cdots p_n + \frac{1}{10^n}$	$p_0 + \frac{p_1}{10} + \cdots + \frac{p_n}{10^n} + \frac{1}{10^n}$
p.69	4 行目、13 行目	$p_0 \cdot p_1 \cdots p_n \cdots$	$p_0 + \frac{p_1}{10} + \cdots + \frac{p_n}{10^n} + \cdots$
p.70	1 行目、-8 行目、-5 行目	有限閉区間	有界閉区間
p.71	1 行目、7 行目、-6 行目	有限閉区間	有界閉区間
p.71	7 行目	$I_n = [a_n, b_n]$ の列 $\{I_n\}$ と、 I_n	$I_k = [a_k, b_k]$ の列 $\{I_k\}$ と、 I_k
p.72	-8 行目	有限閉区間	有界閉区間
p.80	証明	多くのタイプミス	添付ファイル内に赤字で訂正
p.84	-5 行目	$f(x)$	$f_n(x)$
p.89	-6 行目	よつて $\{z_n\}$	よつて $\{w_n\}$
p.90	-1 行目	$x_0 \cdot x_1 x_2 \cdots$	$x_0 + \frac{x_1}{10} + \frac{x_2}{10^2} + \cdots$
p.91	2 行目	$x_0 \cdot x_1 x_2 \cdots x_n \cdots$	$x_0 + \frac{x_1}{10} + \frac{x_2}{10^2} + \cdots + \frac{x_n}{10^n} + \cdots$
p.91	3 行目、6 行目	$x_0 \cdot x_1 x_2 \cdots x_n$	$x_0 + \frac{x_1}{10} + \frac{x_2}{10^2} + \cdots + \frac{x_n}{10^n}$

(*) 単射になる。ただし $(0, 1)$ の元が有限小数と無限小数の両方の表示を持つ場合 (例えば 0.1 と $0.0999 \cdots$ など) は、無限小数表示を用いることとする。